

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2021年(令和3年) 第74号



緑豊かな1号館と図書館前の学内道路

《目次》

学部長挨拶、会長挨拶	2	いもづる会(食品ビジネス学科)	13
令和3年度総会・懇親会	3	あすなろ会(森林資源科学科)	14
令和2年度校友会収支決算書	4	桜水会(海洋生物資源科学科)	15
令和3年度校友会収支予算書	4	工学会(生物環境工学科)	16
校友だより(いもづる会)	5	FT会(食品生命学科)	17
校友だより(あすなろ会)	6	拓友会(国際地域開発学科)	18
校友だより(桜水会)	7	応用生物科学科校友会(応用生物科学科)	19
校友だより(工学会)	8	くらしの生物学科校友会(くらしの生物学科)	20
富嶽会(生命農学科)	9	支部だより(宮城県支部、山形県支部)	21
紫友会(生命化学科)	10	支部だより(神奈川県支部)	22
角笛会(獣医学科)	11	校友会役員名簿、編集委員名簿	23
満喜葉会(動物資源科学科)	12	校友会からのお知らせ	24

「2年目となったコロナ禍の生物資源科学部」

日本大学生物資源科学部 学部長 大矢 祐治

校友の皆様におかれましてはこれまでにない状況の中で、それぞれご活躍のことと思います。日本大学生物資源科学部校友会会報第74号の発刊に当たり学部の近況をお知らせし、ご挨拶とさせていただきます。

新型コロナウイルス感染拡大の終息が見通せない中、昨年に引き続き今年度も学部運営におきましてはこれまで経験したことのない対応に迫られています。大変残念なことに令和3年3月の卒業生に対しても従来のようなかたちで卒業証書伝達式や祝宴を行うことができず、また4月の新入生開講式もこれまでと同じように実施することはできませんでした。ただ、昨年とは違って少しずつですが、令和3年度の前期は実験、実習、演習を中心に対面式で実施する割合が増え、サークル活動も限定的ではありますが

が一部復活しています。しかし、これまで長年行ってきた運動会や学部祭を実施するにはもう少し時間がかかりそうです。このような状況下の中でも受験生確保に重要な高等学校への入試説明会やオープンキャンパスはコロナウイルスの感染防止の観点からオンデマンド方式を活用するなど従来と違ったかたちで実施をしています。

現在、大学全体でのコロナウイルスのワクチン接種も進んでおり、以前のような学生生活がおくれる日々が一日も早く来ることを願っています。そのためにもwithコロナの時代において、コロナウイルスの感染予防に努めるとともに図書館・学生食堂の利用、奨学金をはじめとした修学支援、就職支援、学生相談室など、各種学生サービスを新たなス



タイトルでも実施できるように注力してまいります。校友の皆様におかれましても、引き続き母校の発展のために温かいご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。末筆ではありますが、皆様におかれましても健康には十分にご留意され、ご自愛くださいませようお願い申し上げます。

「第74号校友会会報発刊に向けて」

生物資源科学部校友会 会長 鳥海 弘

校友の皆様方におかれましては、これまでに経験したことのない社会情勢の中で各々の分野でご活躍のこととお喜び申し上げます。この度、内田俊太郎・前生物資源科学部校友会会長の辞任を受けて、生物資源科学部校友会執行役員会ならびに幹事会において会長に選任されました、角笛会会長を拝命しております鳥海 弘と申します。今後は角笛会だけでなく学部校友会全体の運営を託されました。皆様方のご協力をお願いし、微力ではありますが会務の遂行と学部校友会の発展に務めさせていただきます。学部校友会の活動となりますと12分会+1準分会の校友会を束ねての活動となります。本校友会会報を拝読いたしますと各分会はそれぞれ独自に充実した活動をしておられます。

私達が卒業した頃は「農獣医学部」と称しておりましたが、その後は「生物

資源科学部」として改称され農学だけに拘らずさらに科学を付加した他大学に類を見ない国内屈指の農学科学系総合学部として発展してきました。この間多くの同窓諸兄が社会で活躍されていますが、この成長と発展の源は教職員の不断の努力は言うに及ばず、同窓である先輩諸氏のご努力の賜物と感謝と敬意を表する次第です。

現在、社会では新型コロナウイルス感染症の影響で多くの社会活動が停滞しております。本学の校友会活動も同様に少なからず影響を受け、多くの分会で活動が停滞しているのが現状です。例年7月に開催をしておりました通常総会も対面での開催が出来ないままの新年度のスタートとなりました。その中にはありますが本年も第74号校友会会報を発刊する運びとなりました。多くの校友諸兄に本誌を拝読して頂き、発展した学部の現況や各分会の活動を



お届けできれば幸いに存じます。総合大学である本学の特色を生かし「学生・教職員・学部・校友会」と言う強固な「絆」で形成された校友会活動への積極的な参加をお願いし、母校の発展ならびに社会貢献をお願いする次第です。末筆となりますが、校友の皆様にはこのコロナ禍ではありますが健康に十分に留意されご活躍されますことを祈念申し上げます。巻頭の挨拶といたします。

令和3年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会及び懇親会について

令和3年度の通常総会及び懇親会は、令和3年7月10日(土)に開催を予定していましたが新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年度に引き続き中止としました。

通常総会では、前年度の事業実績、収支決算及び監査結果の報告並びに当年度の事業計画案及び収支予算案の最終承認を得ることとしていますが、通常総会を中止しましたことから報告と最終承認を得ることができませんので、令和2年度と同じく幹事会において最終承認を得たとする承認を得ました。

これにより、令和3年度の事業計画案及び収支予算案は、令和2年度第4回幹事会での承認日である令和3年3月31日付けで最終承認を得たこととし、翌4月1日付けで施行しました。

令和2年度の事業実績、収支決算及び監査結果の報告は、令和3年度第1回幹事会の承認日である令和3年7月9日付けで最終承認を得たこととしました。

なお、例年懇親会の席上で行っておりました表彰につきましては、令和3年度第1回幹事会でご承認いただきました令和2年春の叙勲を受章されました腰岡 政二会員(前生命農学科教授)及び同年秋の叙勲を受章されました酒井 健夫会員(元日本大学総長、元学部長)のお二人並びに校友会の幹事を通算10年以上務められましたFT会の栢 英彦会員及び山形県支部の村山 正則会員のお二人、合計4人の方々に対し賞状と記念品をそれぞれご自宅にお贈りしました。



令和2年度 日本大学生物資源科学部校友会 収支決算書

(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	令和2年度予算 (A)	令和2年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 前年度繰越金	20,360,196	20,360,196	0	現 134,766円、預 20,225,430円 (普 7,225,430円、定 13,000,000円)
2. 会費収入	40,875,000	41,007,000	▲ 132,000	
1) 準会員還付金収入	40,386,000	40,488,000	▲ 102,000	準会員 6,748名 × 6千円
2) 正会員還付金収入	489,000	519,000	▲ 30,000	正会員 173名 × 3千円
3. 寄附金収入	0	0	0	
4. 祝金等収入	1,200,000	0	1,200,000	
5. 雑収入	100,000	2,011	97,989	預金利息 1,231円、その他 780円
当年度収入合計	42,175,000	41,009,011	1,165,989	
収入合計	62,535,196	61,369,207	1,165,989	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	令和2年度予算 (A)	令和2年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 分会交付金	19,790,000	19,662,000	128,000	12分会への交付金(初回還付金 39,324千円 × 1/2)
2. 経常費	11,740,000	7,421,126	4,318,874	
1) 人件費	5,000,000	4,720,000	280,000	事務局勤務者に係る給与
2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学生物資源科学部本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事務局運営費	1,200,000	745,538	454,462	コピー機リース料、事務機器購入及び消耗品等購入諸経費
4) 通信費	2,000,000	1,215,608	784,392	会議資料発送、分会の会報発送費の一部補助、切手等購入費
5) 会合費	700,000	85,100	614,900	執行役員会に係る諸経費等
6) 交際費	1,300,000	102,200	1,197,800	日本大学17学部校友会会長会出席経費等
7) 旅費交通費	1,000,000	38,020	961,980	運営補助費(5委員会除く)等
8) 支払手数料	70,000	44,660	25,340	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事業費	12,900,000	8,590,444	4,309,556	
1) 総会費	1,700,000	40,044	1,659,956	表彰に係る諸経費
2) 広報費	2,200,000	1,500,400	699,600	会報印刷製本、ホームページ管理費用等
3) 総務委員会運営費	20,000	0	20,000	
4) 財務委員会運営費	20,000	0	20,000	
5) 企画委員会運営費	20,000	0	20,000	
6) 広報委員会運営費	70,000	0	70,000	
7) 組織委員会運営費	50,000	0	50,000	
8) 記念事業補助費	100,000	0	100,000	
9) 準会員対応費	8,000,000	6,700,000	1,300,000	学部校友会奨学金
10) スポーツ振興対応費	100,000	50,000	50,000	日本大学スポーツ振興特別委員会への寄付金
11) 箱根駅伝対応費	120,000	0	120,000	
12) 組織拡充計画費	300,000	200,000	100,000	宮城、山形、神奈川、高知の県支部への活動資金の補助費
13) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金 (R4年度まで10ヵ年)
14) 歴史展示室開設資金	50,000	0	50,000	
15) ホームカミングデー経費	50,000	0	50,000	
4. 予備費	2,000,000	0	2,000,000	
当年度支出合計	46,430,000	35,673,570	10,756,430	
次年度繰越金	16,105,196	25,695,637	▲ 9,590,441	現 1,137,130円、預 24,558,507円 (普 11,558,507円、定 13,000,000円)
支出合計	62,535,196	61,369,207	1,165,989	

令和3年度 日本大学生物資源科学部校友会 収支予算書

(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	令和3年度予算 (A)	令和2年度予算 (B)	令和2年度決算 (B)	2年度決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 前年度繰越金	25,695,637	20,360,196	20,360,196	5,335,441	現 1,137,130円、預 24,558,507円 (普 11,558,507円、定 13,000,000円)
2. 会費収入	39,840,000	40,875,000	41,007,000	▲ 1,167,000	
1) 準会員還付金収入	39,306,000	40,386,000	40,488,000	▲ 1,182,000	39,306千円 与 平均還付金 42,220千円 × 伸び率 98% × 調整率 95%
2) 正会員還付金収入	534,000	489,000	519,000	15,000	534千円 与 平均補助費 525千円 × 伸び率 101.9%
3. 寄附金収入	0	0	0	0	
4. 祝金等収入	1,200,000	1,200,000	0	1,200,000	総会・懇親会等の会費及び祝金
5. 雑収入	100,000	100,000	2,011	97,989	預金利息、幹事会後の懇親会会費収入等
当年度収入合計	41,140,000	42,175,000	41,009,011	130,989	
収入合計	66,835,637	62,535,196	61,369,207	5,466,430	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	令和3年度予算 (A)	令和2年度予算 (B)	令和2年度決算 (B)	2年度決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 分会交付金	19,260,000	19,790,000	19,662,000	▲ 402,000	19,260千円 ÷ (還付金 39,306千円 × 初回還付率 98%) × 1/2
2. 経常費	11,740,000	11,740,000	7,421,126	4,318,874	
1) 人件費	5,000,000	5,000,000	4,720,000	280,000	事務局勤務者給与、アルバイト賃金
2) 本部分担金	470,000	470,000	470,000	0	日本大学生物資源科学部本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事務局運営費	1,200,000	1,200,000	745,538	454,462	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通信費	2,000,000	2,000,000	1,215,608	784,392	分会の会報発送費の一部支援、関係先への資料発送費等
5) 会合費	700,000	700,000	85,100	614,900	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る諸経費
6) 交際費	1,300,000	1,300,000	102,200	1,197,800	分会、県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅費交通費	1,000,000	1,000,000	38,020	961,980	出張旅費、運営補助費(5委員会分は除く)
8) 支払手数料	70,000	70,000	44,660	25,340	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事業費	12,800,000	12,900,000	8,590,444	4,209,556	
1) 総会費	1,700,000	1,700,000	40,044	1,659,956	総会・懇親会開催諸経費
2) 広報費	2,200,000	2,200,000	1,500,400	699,600	校友会会報・パンフレットの印刷、ホームページ管理費
3) 総務委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	70,000	0	70,000	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	50,000	50,000	0	50,000	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	100,000	100,000	0	100,000	分会及び県支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準会員対応費	8,000,000	8,000,000	6,700,000	1,300,000	学部校友会が行う奨学金、準会員支援の原資
10) スポーツ振興対応費	100,000	100,000	50,000	50,000	日本大学スポーツ振興関連諸費用
11) 箱根駅伝対応費	120,000	120,000	0	120,000	箱根駅伝の応援に係る諸費用
12) 組織拡充計画費	200,000	300,000	200,000	0	都道府県支部の運営資金の一部補助等
13) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金 (R4年度まで10ヵ年)
14) 歴史展示室開設資金	50,000	50,000	0	50,000	記念展示室の開設準備費用
15) ホームカミングデー経費	50,000	50,000	0	50,000	ホームカミングデー開催準備費用
4. 予備費	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000	(ホームカミングデー開催経費を含む)
当年度支出合計	45,800,000	46,430,000	35,673,570	10,126,430	
次年度繰越金	21,035,637	16,105,196	25,695,637	▲ 4,660,000	
支出合計	66,835,637	62,535,196	61,369,207	5,466,430	

校友だより

持続可能な価値ある絆に 寄り添い続けたい!

食品経済学科(現:食品ビジネス学科)
1988年卒業 松原 晋
日本水産株式会社 広域営業本部
信越営業所 所長

私が食品経済学科を卒業した1988年は昭和最後の節目の年(昭和63年)です。同年に日本水産(ニッスイ)に入社してから平成・令和と元号が変わり33年が経過しました。昨年からの新型コロナウイルスの影響で生活環境が大きく変わったことは申し上げるまでもありませんが、卒業以来「変わらない価値もある」と感じています。学生時代の研究室(当時は産業政策ゼミに所属)の恩師との絆や研究室やサークル活動(当時は音楽サークルのLMPとテニスサークルのPOTATOに所属)の仲間たちとの絆が、まさにそれだと感じています。私は数年前からいもづる会の常任幹事を務めさせていただいておりますが、研究室やサークルが同じではなくて

も、いもづる会のメンバー(現:食品ビジネス学科卒業)という絆があり、先輩・同期・後輩とのご縁の大切さを感謝しております。この絆は学科の壁を越えて、生物資源科学部全体へとつながっていることも強く感じている次第です。私は入社してから4年間、経理部署に所属した後は一貫して営業の仕事に携わってきました。2017年に信越営業所勤務を命じられ長野県に駐在し、長野県と新潟県を担当しております。水産物をはじめとした持続可能な資源から多様な価値を創造し続け、人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献すべく、日々、前向きに活動しております。ニッスイと長野県東御(とうみ)市は、同市の食の発展とスポーツの振興を図り豊かな地域社会を形成することを目的として2020年9月に相互の連携および協力に関する基本的事項について包括協定を締結しました。ニッスイ湯の丸アスリート食堂は2020年6月にニッスイと湯の丸スポーツサービス(株)がネーミングライツ協定を締結した食堂施設です。水産資源由来の速筋タンパクやEPA(エイコサペンタエン酸)を通じたからだづくりのサ

ポートを展開し、アスリートへの食事面からのコンディション維持とトレーニング効果の向上を図ります。日本屈指の高地トレーニング施設「GMOアスリートパーク湯の丸(屋内プールなどを保有)」と隣接しており、今年の2020年東京オリンピック・パラリンピックでは当施設を利用された競泳選手が金メダルを獲得されるという嬉しいニュースもありました。今後は東御市と協働し食に関する啓発活動や情報発信を行い、市民の健康づくりにも貢献して参ります。私自身は生涯学習の大切さや学び直しの観点から、52歳の時に(働きながら)都内にある大学院へ通い(2年間)、経営管理修士(MBA)を取得しました。産学ネットワーク強化のテーマに少しでもお役に立ちできるよう(微力ではありますが)今年の7月に食品メーカーの戦略事例として特別授業をさせていただきました。母校の教壇に立ち現役の学生の皆さんや先生とコミュニケーションができたことは望外の喜びです。今後も(末永く)持続可能な価値(絆)に寄り添い続けたい!と考えております。



ニッスイ湯の丸アスリート食堂入口にて(長野県東御市)



年末商材の現物確認「伊根まぐろ(国産)100kg級」(長野県上田市の市場)



取引先の展示会場にて(食品ビジネス学科出身のライバルメーカーの後輩と)



食品企業経営学(特別授業)

人と森をつなぐ

森林資源科学科
平成18年度卒業 遠藤 絵実
千葉県北部林業事務所

私は小学生の頃、綺麗な自然の映像を見てとても感動しました。それと同時に、その自然が破壊されていることを知り、自然を守る仕事がかっこいいと思いました。森林を守ることが多くの自然を守ることに繋がると思い、日本大学の森林資源科学科に入学しました。

現在は千葉県庁に務め、主に林道の維持管理と県民の森の管理の業務に携わっています。林道の仕事では、崩れた林道の復旧工事等を行っています。現場で被害状況を確認し、測量をして設計図を作成します。また、工事監督として、工事が順調に進むように工事現場の方と相談等を行います。道路が完成し、自分で書いた設計図どおりの道が目の前に出来上がって

いる光景を見ると、達成感を感じられずにはられません。林道を直すことで林業従事者と森林とをまた繋ぐことができ、人の役に立っていることが実感できる仕事にやりがいを感じます。

もう1つの仕事として、県民の森の施設管理を委託している会社に管理運営のアドバイスをし、また建物等施設の改修工事の設計・工事監督等を行っています。来園者が楽しそうに自然と親しんでいる姿や修理した施設を利用している姿を見ると、この仕事をやっていて良かったと思います。そして、来園者がここで遊んだ経験から、森の良さに気づき、森が好きになるきっかけを作れる、そんな仕事だと思います。

公務員の林業職は、この記事で紹介した仕事の他に、県が持っている森林を管理する仕事、森林の利用促進や動植物を守ったり、木材生産者にアドバイスをしたり、森林の研究をしたりと、森林に関する様々な仕事

を行います。どの仕事にも共通することは、人と森とを繋ぎ、より良い関係を作っていくことだと思います。もし、森林に関わる仕事に就きたいと考えている学生さんがいたら、公務員の林業職はやりたいことが見つかる仕事だと話します。

最後になりますが、私が森好きになったのは、大学生になってからです。大学の実習やサークルで森へ行く機会が多くなり、その魅力に惹かれました。森へ行って、おいしい空気を吸って、森の中を歩けば心も体も癒されます。この自然をずっと未来まで残したいと思うのですが、遠い未来のことを考えようとしても漠然としてしまいます。ですので、自分たちの孫の世代が、私たちと同じように豊かな自然に触れられる機会を残すことを目標にしたならやる気が出ませんか？皆さんの取り組みによって豊かな自然が残ることを願っています。



樹齢約180年のサンプスギの年輪盤



林道の測量の様子



県民の森の施設の確認

地域の食資源から新製品開発

海洋生物資源科学科
平成30年度卒業 渡邊 明日香
茨城県立海洋高等学校 教諭

私は2019年3月に海洋生物資源科学科を卒業し、同年4月に茨城県立海洋高等学校に赴任しました。茨城県立海洋高等学校は茨城県内唯一の水産・海洋高等学校で漁船や商船の船舶職員を目指せる海洋技術科・製品を作るところから、販売までを学ぶ海洋食品科・ダイビングや港湾作業や沿岸漁業といった海洋関連の幅広いことを学ぶ海洋産業科の3科に分かれています。私はそのなかの海洋食品科を担当して3年目になります。食品の販売・製造だけでなく食品管理といった食に関する座学を中心としさらに、実際に製品を作る実習があります。実習では大人気の「さんまの大

和煮」の製造だけでなく新たな製品の開発も行っております。昨年は地元那珂湊で人気の焼きそば「那珂湊焼きそば」を製造している製麺所と連携し麺をバンズに見立てた「麺バーガー」を作りました。中身には地元で食べる風習のあるメカジキのフライを使用し、衣にはパン粉ではなく食感を楽しめる用に柿の種を採用しました。試作したバーガーは那珂湊焼きそばをPRする団体「那珂湊焼きそば大学院」の皆さんに食べていただいたところとても評判がよく新聞にも掲載していただきました。また、今年度開催されたオリンピックにおいて茨城県はベルギー選手の事前キャンプ地となっており、そのおもてなし料理として「麺バーガー」を提供させていただきました。提供するにあたり生徒達はオリンピック・パラリンピック課や料理研究家の方と協力し、ベルギー選手のことを考

えた新たな「麺バーガー」を製作しました。残念ながら新型コロナウイルスの影響で選手に直接提供は出来ませんでしたが、選手の皆さんから「美味しかった」と言っていたことを聞き私も生徒達もとても嬉しく、良い経験をさせていただきました。このように学校では地元企業や県内学校・茨城県の方々と協力し新製品開発や学校を中心に食の発展に取り組んでいます。私自身まだわからないことがたくさんありますが、生徒達と一緒に勉強することでもっと関わりたいと思っております。今後も生徒を中心に地域との連携を大切にし、さらに茨城県内の企業様や学校とも連携し最終的には生徒とともに全国の水産・食品関連の発展に貢献していきたいと考えています。



さんまの大和煮生産実習の様子



麺バーガー(テイクアウトバージョン)



麺バーガー(プレートバージョン)

土木の力で農業を支える

生物環境工学科

平成30年度卒業 山崎 拓人

国土交通省北海道開発局札幌開発建設部深川農業事務所

私は平成31年に農林水産省に入省後、令和2年4月に国土交通省北海道開発局札幌開発建設部深川農業事務所に出向となりました。現在は、国営事業の工事発注、工事監督業務等を行っています。担当している事業は、頭首工の建設を行う雨竜川下流地区と区画整理を行う雨竜暑寒地区の2つです。雨竜川下流地区では、既設の頭首工が洗堀や流況の変化によって転倒の恐れがあることから、防災事業として2.5km上流に頭首工を建設する工事と付随する導水路の工事を行っています。頭首工工事は川を半分締め切り、右岸3年、左岸2年の計5年かけて行う工事です。非

出水期（川の水が少ない11～3月）に行うのですが、北海道の冬は厳しく、コンクリートの養生に適した温度にするために、全体を布で囲い内部をヒーターで温めて施工します。高さ約18mの堰柱と、それを覆う囲いは圧巻の大きさでした。

雨竜暑寒地区では、複数のほ場をまとめて大区画化する区画整理を行っています。区画整理では、農家さんとの話し合いが欠かせません。最終的に使う農家さんの意見をできる限り汲み取り、使いやすいほ場になるよう努めています。区画整理は個人で簡単にできるものではありません。だからこそ、長く使える良いほ場を作りたいと思っています。

工事監督業務は実際に工事するわけではないので、モノを作る達成感はないほどは感じられません。しかし、複数の工事に関わり、工事の方針を決めることができることは工事監督業務だからこそできること

であり、やりがいを感じます。また、農家さんから整備する上で気を付けて欲しいことや営農の苦労話などを聞いたことはとても良い経験になりました。

最後に、大学では生物環境工学科生物生産システム工学研究室に在籍し、宮本眞吾教授に御指導いただきました。卒業論文のテーマが決まった際、宮本教授が「どのテーマになったとしても責任感を持って取り組むことが大切だ。」とおっしゃっていたことを思い出します。社会人になると、やりたいことばかりできるわけではありません。その中で向上心と責任感を持って「やりきる」ことの大切さを研究を通して学ばせていただきました。令和3年3月をもって定年となり特任教授になられた宮本先生に、この場を借りて感謝とお祝いの言葉を伝えさせていただきます。



正しく施工されているか確認



雨竜川下流地区 頭首工建設工事



雨竜暑寒地区 区画整理工事

富 嶽 会

生命農学科

連絡先：緑地環境科学研究室
0466-84-3511 事務局長 大澤 啓志
E-mail: osawa.satoshi@nihon-u.ac.jp

令和3年度富嶽会総会の開催

令和3年度富嶽会総会は、昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催できませんでした。令和2年度事業報告・決算報告・監査報告および令和3年度事業計画案・予算案の審議につきましては、理事会内で書類の郵送やメール会議で審議を進め、承認されました。

活動経過報告

準会員である現役学生に対する支援を毎年行っています。昨年度末には、ほとんど登校できなかった1年生に対して、上級生有志がオンラインで懇親会を開催しました。後輩の孤立や不安を解消すべく企画されたイベントを富嶽会からも支援しました。

本年3月25日、121名が生命農学科を卒業して新たに富嶽会正会員の仲間入りをしました。富嶽会からの記念品として、ロゴマークが刻印された名刺入れが贈られました。これまでとは異なるオンライン方式の就職活動に奮闘し、制約の多い中で工夫しながら卒業研究に取り組んだ経験は、あらゆる事に対して柔軟に対応できる力となっていくことと思います。

本年4月には131名の新入生を迎えました。学科1-2年生には、富嶽会のロゴマークと学科の略称であるAGBの文字がデザインされたトートバックや学科Tシャツを進呈しました。学科Tシャツは各学年で色やデザインが異なります。実習着にAGBのロゴ刺繍を入れる費用も補助しましたので、楽しく元気に実習できる一助となれば幸いです。

また、令和5年に予定している学科校友会70周年記念事業の一環で、学科実験室にレーザー光源プロジェクトを寄贈することになりました。



学科2年生へ配布された学科Tシャツ



実習着のロゴ刺繍

生命農学科の近況

学科恒例の新入生歓迎イベントである鵜沼海岸での地引網を4月末に楽しむことができました。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため実施できませんでしたが、上級生有志の協力のもと早い段階で新入生同士の交流ができました。また、これまで座学の授業は全て講義動画の配信を行うオンデマンド型授業となっていました。本年度より、1年生および2年生開講の授業を中心に、従来の対面授業も行われています。教壇にはアクリル板が設置され、室内には消毒用のウェットシートとエタノールスプレーが配備されますが、学生のマスク越しの笑顔も見られます。この事態が1日も早く収束し、キャンパスライフを心から楽しめる日が



鵜沼海岸での新入生歓迎イベント(地引網)

くることを切に願います。

野村和成名誉教授(遺伝育種科学研究室)らの研究チームが長年かけて開発したトウガラシ「しげまるレッド」が昨年2月に新品種として正式登録され、現在、特許取得の手続きが進められています。生物資源科学部のキャラクター「しげまる」の名を冠した「しげまるレッド」は、色鮮やかで風味豊かなトウガラシで、収量性が高い上、ヘタを簡単に外せるという加工適性が革新的な品種です。野村名誉教授は、国内のトウガラシ専門メーカーからの問い合わせを契機に、立石亮教授(園芸科学研究室)、附属農場技術職員 岩永崇氏らと共同で2種のトウガラシの交配による品種改良にとりかかりました。9年の歳月をかけて双方の有用形質を集積した新品種を育成しましたが、その間、多くの学生が栽培や収穫などの作業で関わりました。機械収穫による国産トウガラシの大量生産の切り札として期待されています。



しげまるレッド

富嶽会事務局より

富嶽会のホームページ(<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~fugakukai/>)に、令和3年度 富嶽会 第1回理事会の資料を掲載いたしましたので、どうぞご覧ください。(宍戸理恵子)

紫友会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室

0466-84-3945 事務局長 荻原 淳

E-mail: ogihara.jun@nihon-u.ac.jp

令和3年度 紫友会

【令和3年度理事会について】

昨年度はコロナ禍の影響により理事会の対面での通常開催が困難となり、紙面開催、議事の承認はgoogle formおよび郵送にていただきました。また総会は理事会をもってかえさせていただきました。皆様のご理解とご協力を賜りましたこと感謝申し上げます。本年度も昨年度同様、理事会は紙面開催とさせていただきます。コロナ禍が収束し、皆様に安心してお目にかかるようになることを祈念して、微力ではありますが運営をすすめていただきたいと思います。引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

活動経過報告

令和2年度の活動は、例年実施しております準会員である在学生への後援活動行事が中止となったため、限られたものとなりました。通常開催されている行事についてご案内致します。[新入生歓迎会共催]、[フレッシュマンセミナー：ロールモデル講演会共催]、[紫友会奨学金授与]、[紫友会特別賞授与]、[就活支援セミナー共催]、[新入生ネームプレート贈呈]、[紫友会杯争奪ソフトボール大会共催]、[研究室配属説明会共催]、その他謝恩会や研究室単位での同窓会開催補助等を実施しております。特にコロナ禍にて学生の就職活動の多様化が進んでおりますことから、3年次学生を対象とした就活支援セミナーの開催等の後援活動の充実が必要であると考えております。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【令和3年度 第28回紫友会奨学生決定】

理事会の同日に奨学生選考委員会より厳正に選考された以下9名の奨学生が決定しました。

2年次；松本 乃乃花、吉添 文乃、
関 優花

3年次；古島 憩、渡邊 直杜、
青木 颯真

4年次；佐野 佑哉、玉虫 千浪、
渡部 一真



新入生ガイダンス



紫友会奨学生の皆さん



紫友会特別賞受賞風景

生命化学科の近況

【在校生】

令和2年度は在宅でのオンデマンドによる受講体制、並びに限られた時間での実験実習となりました。このためすべての学内行事が中止となり、在校生に対する後援活動も例年のように実施することができませんでした。卒業式は令和3年3月25日に日本武道館および学部大講堂にて令和2年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生121名が社会へ羽ばたきました。3密を避けるため指定された講義室に分散しての静かな伝達式となりました。同年4月から生命化学科1年次学生137名(男子85名、女子52名)を迎え入れ、現在、

当学科には計531名(男子295名、女子236名)の学生が在籍しております。

【学科教員動向】

令和3年3月31日付けにて隅田裕明先生(土壌圏科学研究室)が定年退職されました。隅田先生には長年にわたり紫友会事務局長として紫友会の活動を支援いただきました。先生の献身的なご支援に感謝申し上げます。4月1日から特任教授として学生教育にご助力いただいております。令和2年10月20日付けにて赤尾真先生(食品化学研究室)が退職されました。先生の今後のご活躍を祈念致します。

令和3年4月1日付けで袴田航先生(生物化学研究室)、中川達功先生(環境微生物学研究室)が教授へ、細野崇先生(栄養生理化学研究室)小林孝行先生(土壌圏科学研究室)が准教授へ、土屋雄揮先生(環境微生物学研究室)が専任講師へ昇格されました。先生方の益々のご活躍を期待しております。これにより、学科全体では教員16名(教授8名、准教授3名、専任講師3名、助教1名、助手1名)、特任教授1名、実習助手2名、合計19名の布陣で教育研究活動にあたっております。

紫友会事務局より

【事務局からのお知らせ】

昨年度に引き続き本年度も会員並びに準会員への後援活動を実施していきたいと考えています。コロナ禍の影響の中、特に準会員の学生の皆様に今後どのような支援ができるか不透明な状況です。事務局では適時適切な支援活動を実施していきたいと考えています。今後とも皆様のご支援を御願い申し上げます。紫友会会員の皆様の近況や同期会等のご様子を事務局まで御知らせ下さい。紫友会のホームページは<http://www.nihon-u-shiyukai.jp>からご覧いただけます。また、インターネット上で「紫友会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

(荻原 淳)

角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医病態生理学研究室
0466-84-3633 事務局長 鯉江 洋
E-mail: koie.hiroshi@nihon-u.ac.jp

令和2年度 角笛会主催 動物病院就職説明会

令和2年9月9日に、角笛会主催で獣医学科学生（準会員）のためのWeb動物病院説明会を開催しました。例年、6月の角笛会総会に合わせて対面式説明会を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症のため、その代替として実施しました。参加施設は22動物病院、学生は18名の参加でした。

令和3年度 角笛会総会・ 日本大学獣医学会 合同開催および角笛会主催 動物病院就職説明会の中止

令和3年度角笛会総会ならびに日本大学獣医学会を合同開催する予定で準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の収束がみられないことから、令和3年度角笛会総会ならびに日本大学獣医学会の合同開催を中止することといたしました。

また、同日に開催予定であった獣医学科学生（準会員）のための動物病院就職説明会についても、同様に中止することといたしました。

令和3年度 角笛会総会（紙上開催）

令和3年8月6日に、紙上にて令和3年度角笛会総会を開催し、8月16日までご意見をいただきました。令和2年度事業活動および会計収支報告、令和3年度事業活動および予算案等が審議され、全員一致で承認されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、内田浩司氏（静岡県）、渡部淳一氏（岩手県）の2名に賞状と記念品が授与されました。

第19回日本大学医療系同窓・ 校友学術講演会の開催の中止

第19回日本大学医療系同窓・校友学術講演会は、開催する予定で準備をすすめておりましたが、新型コロナウイルス感染症の収束がみられないことから中止となりました。

酒井健夫名誉教授 「瑞宝重光章」受章

本学名誉教授 酒井健夫先生は、昭和56年に農獣医学部獣医衛生学研究室の教員として着任された後、32年間にわたり研究・教育に従事されました。本学部の学部長および平成20年には第12代日本大学総長に就任し、学生の教育および研究環境の整備・充実などをはじめ、多くの教学改革を手掛けられて、本学の発展に大きく貢献されました。また学外でも、農林水産省獣医事審議会会長、内閣府食品安全委員会プリオン専門調査会座長、日本産業動物獣医学会会長、全国農学系学部長会議副会長、私立獣医科大学協会会長などの多数の要職を歴任されました。平成25年3月に本学を定年退職された現在も公益社団法人日本獣医師会の顧問、農場HACCP協議会の会長、動物看護師統一認定機構の代表理事をはじめ、多くの要職で獣医・畜産界を牽引されておられます。これらの功績に対し、令和2年秋の叙勲において、「瑞宝重光章」を受章されました。

獣医学科の近況

【獣医師国家試験】

第72回獣医師国家試験が令和3年2月16日、2月17日にTOC有明4階にて行われました。本学から115名が受験し、109名が合格しました。合格率は94.8%（全国平均92.1%）で、私立大学2年連続第1位になりました。

【卒業生および新入生】

本年3月25日に116名（男子41名、女子75名）が本学科を卒業しましたが、通常の卒業式は中止となり、

学科別に卒業証書等を授与するのみの簡略的なものとなりました。

本年4月には125名（男子52名、女子73名）の新入生を迎えましたが、スポーツフェスタおよび新入生歓迎会等のイベントは中止となりました。

【学科人事】

本年3月をもって鎌田寛教授（獣医臨床病理学研究室）が退職されました。本年4月に瀬川太雄助教（獣医衛生学研究室）、山口卓也助教（獣医薬理学研究室）、鎌田寛特任教授（獣医臨床病理学研究室）が採用されました。枝村一弥先生（獣医外科学研究室）、大滝忠利先生（獣医臨床繁殖学研究室）、伊藤大介先生（獣医神経病学研究室）が教授に、住吉俊亮先生（獣医臨床繁殖学研究室）が准教授に昇格されました。学科事務室の森田真衣実習助手が再任しました。また、堀北哲也教授が獣医産業動物臨床学研究室に、住吉俊亮准教授が獣医臨床繁殖学研究室に異動されました。



瀬川 太雄 助教



山口 卓也 助教

（大野真美子）

満喜葉会

動物資源科学科

連絡先：動物組織機能学研究室
0466-84-3702(直通) 事務局長 園田 豊
E-mail: sonoda.yutaka@nihon-u.ac.jp

令和3年度満喜葉会 —活動経過報告—

【役員協議会の開催】

今般の状況により、役員会、総会の開催を断念し、昨年度に引き続き役員協議会の開催に至りました。協議会の内容は以下のとおりです。

「令和3年度 第1回役員協議会」

開催日時：令和3年7月25日17時～19時

場 所：小田急線登戸駅前会議室

参加者：小杉会長、植村副会長、横山副会長、山本副会長、以上4名

議事概略 ①令和2年度議事録確認

②役員の方針の動向、名簿確認作業実施

③会報発送先の再確認、会報の広告募集の検討

④ホームページの改善実施と担当設置

⑤農場の改修工事進捗状況の問い合わせについて

⑥その他

なお、上記⑤について、現在の状況などについては、「学科の近況」内でお知らせいたします。

学科の近況

【スポーツフェスタ、新入生歓迎会】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年度と同様、本年度のスポーツフェスタ、その後の新入生歓迎会も残念ながら中止となりました。

【卒業生、新入生および学内状況について】

令和3年3月25日に131名が動物資源科学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月には134名の新入生を迎え、学科在籍学生数は、1年次139名、2年次131名、3年次145名、4年次141名、合計で556名(6月

1日現在)となっています。学部総学生数6,578名の男女比は男子59%、女子41%ですが、動物資源科学科をはじめ、獣医学科、食品ビジネス学科、食品生命学科の4学科は女子学生の割合が54～58%と女子優位な構成になっています。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大、政府による緊急事態宣言に伴い、新学期開始から学部キャンパスへの入構は原則的に禁止されたため、入学式、新入生ガイダンス等も中止となりましたが、本年度は新入生を2クラスに分け、2年ぶりに新入生ガイダンスが行われました。前期の授業形態は、新入生(必修科目)は基本的に対面授業、2年次以降の科目は「オンデマンド授業」(Web上の授業)と「対面授業」の併用、実験・実習・演習は対面で行われ、8月7日に前期授業は終了しました。

【学部農場整備について】

近年の社会を取り巻いている動物愛護活動等に対応するため、平成21年に「日本大学動物実験運営内規」が施行され、同29年に「高等教育機関である大学における研究、学生実験・実習等に供する動物は家畜を含め、すべて実験動物として扱う」ことが明記されました。これは内規に則った厳正な機関(大学)管理が行われていることを外部機関に対して保証するものです。それに対応できる施設の新設に加え、危機管理の観点から安全な畜舎の設置や感染症防御に向けた衛生管理の徹底に向けて、日本大学本部理事会の承認を受け一昨年度より本部主導による農場(畜舎)の整備が順次進められています(写真1、2)。畜舎全体の完成は本年度内に予定されていますが、今後、大学内規に準拠した新施設での安全・安心な実験・実習が期待されます。

【学科人事について】

委嘱任期満了のため、丹羽美次特任教授は令和3年3月末日をもってご退任されました。その他の退職、



写真1:農場衛生管理区域入口より



写真2:解体された円形牛舎方面

新規採用、昇格人事はありませんでした。

本年度の研究室配置と所属教員と特任教授は以下の通りです。

動物組織機能学(山室 裕 教授、園田 豊 専任講師、相澤 修 専任講師)

伴侶動物学(福澤めぐみ 准教授)

ミルク科学(川井 泰 教授)

動物生殖学(大西 彰 教授、三角浩司 准教授)

野生動物学(岩佐真宏 教授、明主光 助手)

草地学(佐伯真魚 教授)

飼養学(梶川 博 教授、浅野早苗 助教)

学科事務室(深谷有紀 実習助手)

特任教授(村田浩一、増田哲也、小泉聖一、長嶺慶隆)

訃報

水野秀夫先生

(令和2年9月3日逝去、享年89歳)

森地敏樹先生

(令和3年4月5日逝去、享年89歳)

佐藤嘉兵先生

(令和3年4月30日逝去、享年80歳)

永年にわたり、学生教育・学科運営に対し多大なご尽力を戴きました。ここに感謝申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。(山室 裕)

いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：学科事務室

0466-84-3420 事務局長 高橋 巖

E-mail: imozurukai@gmail.com

役員会・幹事会のオンライン開催

2021年度に入っても新型コロナの収束しない状況に鑑み、本年度はZoomを駆使して、初のオンライン役員会・幹事会(7/3土)を開催しました。全ての議事が満場一致で了承されました。現職教員の参加にも感謝したいと思います。新役員体制による活動計画等については、ホームページ(いもづる会で検索)をご覧ください。長年尽力された大川高太郎氏が会計監事を退任、後任には飯塚勝彦氏が就きました。また新たに木島実氏が常任幹事長(産学ネットワーク担当)に、中原博司氏、持丸祐氏、米澤哲氏が常任幹事にそれぞれ就任しました。事務局体制は引き続き、高橋巖事務局長、佐藤奨平事務局員が務め、大石敦志前事務局長には当面の間サポートをしていただきます。



オンライン役員会



オンライン幹事会

産学ネットワーク強化へ

今回特に注目される点は、学科との「産学ネットワーク」強化にあります。食品ビジネス学科(名称変更)10年目の2020年に中堅・若手教員で議論を重ね策定した「新・中長期基本計画」を受けてのことです。食は前身である農経・食経から78年目を迎え、1万名以上の卒業生を輩出してきました。その多くが、食品関連業界を中心に経営管理等のマネージャーとして、製品・

サービスの企画・マーケティングを日々現場で実証する専門家の皆さんです。新役員の顔ぶれも、民間企業をはじめ団体・研究・行政等の実務経験者として、若手からベテランまで幅広く充実してきました。

強化の手始めとして、すでに一部の講義・ゼミでは、経営戦略事例や組織マネジメント、成熟化時代のマーケティング戦略等に関する特別授業に参画いただいています。経営学の「お堅い」理論が、実際の経営現場でどのように「柔らかく」適用されているかを早い段階から学べる機会となり、授業アンケートで学生にも好評ですが、担当教員側も経営現場の最新情報でアップデートできています。今後も“シナジー効果”への模索を続けていきます。

学科史パネル設置

学科75周年・学科校友会70周年記念事業の学科史パネルが完成し、長年閑散としていた10階廊下(統計資料室側)に寄贈・設置されました。在学生や卒業生・食品企業等来訪者向けだけではなく、オープンキャンパスの説明コーナーとしても活用されます。取り外し可能なため、特別展示も可能になります。



学科史パネルの寄贈・設置

食品ビジネス学科の近況

【卒業生・新入生】

2020年度に138名の学生が卒業し(正会員総数10,195名)、2021年度は145名の新入生を迎えました。学科単位の学位授与式及び新入生ガイダンスは、ソーシャルディスタンスを確保できるよう大講堂で行われました。デジタル対応にも長けた教員の活躍もあり、円滑に開催できました。当日の様子は、食ビチャンネル(YouTube)をご覧ください(チャンネル登録で応援の輪が広がっています)。

前期授業は大幅に変化し、原則対面形式で行って来ました。教室の除菌・換気等

を強化するとともに、ゼミ室には透明のパーティションを設置するなど、最大限の感染予防対策を講じてきました。学科では学生の学業・就活等のケアを続けています。後期も社会状況をみて柔軟に対応していく予定です。



一坪農園でのゼミ活動



対面ゼミでのプレゼン発表の様子

【教職員の動き】

2020年12月に佐藤奨平が石川松太郎食文化研究奨励賞を受賞しました。

2021年3月末日を以て、木島実先生(マーケティング研究室)が定年退職されました。木島先生は1981年に着任以来40年の長きにわたり学科の研究教育に尽力され、多くのゼミ生を世に送り出してきました。今後は大学の非常勤講師やいもづる会等でもご活動されます。同時に実習助手の巢籠和菜さんが本学科を離れて、教務課に異動となりました。ご活躍をお祈りいたします。

4月には久保田裕美先生、谷米温子先生がそれぞれ准教授に昇格されました。また事務室の臨時職員に井上友紀子さんが、6月には統計資料室(食の専門図書室)再開に伴い、司書の矢形康子さんがそれぞれ着任されました。

最後に残念なお知らせです。本学科で教授を務めた鈴木福松先生が昨年6月に、中島正道先生が本年8月にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

情報発信は、Eメール・FB等で行っております。登録をお願いいたします。

- (1) いもづる会ホームページ
<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>「いもづる会」で検索
- (2) いもづる会 Facebook(いもづる会 校友会)

<https://www.facebook.com/imozurukai/>
Facebookで友達申請をしてください。

(佐藤 奨平)



あすなる会

森林資源科学科

連絡先：木材工学研究室
0466-84-3763 事務局長 宮野 則彦
E-mail：asunaronichidai@gmail.com

令和元年度あすなる会活動報告

【役員会】

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、例年のような総会や懇親会は開催せず、代わりとして9月にメールによる役員会議を開催しました。令和元年度事業報告、監査報告、次年度の事業計画案及び予算案について審議され、承認されました。

田中惣次氏 第30回「みどりの文化賞」受賞

林業家の田中惣次氏（第18期、1969年卒業）が、第30回「みどりの文化賞」を受賞されました。同賞は、公益社団法人国土緑化推進機構が、緑や森に関して顕著な功績のあった者を対象として顕彰している榮譽ある賞です。田中氏は、東京都檜原村で新しい技術等を導入した森林施業に積極的に取り組み、循環型の森林経営を行いつつ、技術等の普及啓発や人材育成に尽力されてきました。こうした長年にわたる活動が高く評価されました。6月には、本学科4年生4名と教員3名が田中林業を訪問し、受賞のお祝いを兼ねて座談会を行いました。



みどりの文化賞受賞の田中惣次氏

学科の近況

【卒業生・新入生】

新型コロナウイルスの影響により、今年度も通常とは異なる対応が続いています。本年3月25日には、123名（男子88名、女子35名）が本学科を卒業しましたが、昨年度と同様、学部全体の卒業式は行わず、学科別に卒業証書等を授与するのみの簡略的なものとなりました。なお、研究室において成績優秀かつ研究室に貢献した学生への「あすなる会会長賞」は例年通り授与し、9名に表彰状と記念品が贈られました。



学科別の卒業証書授与式の様子

4月には、123名（男子97名、女子26名）の新入生を迎えました。あすなる会からご支援を頂き、新入生に入学記念品を贈りました。今年度は、スポーツフェスタ（学部運動会）等の一部のイベントは中止になったものの、感染予防対策を徹底することで、新入生ガイダンスや対面方式での授業・実習の実施が実現しました。1年生前期必修の森林資源科学実習では、少人数のグループに分けて、教員が個別にフィールド実習や実験を行うメニューを実施することができました。



1年生の森林資源科学実習の一コマ(8月)

引き続き、感染予防を徹底しながらの講義や実習を実施する予定です。充実した学修の場を提供できるよう、学科教員一同で努めて参ります。

【学科の人事】

本年3月、森林利用学研究室の井上公基先生が退職されました。井上先生には、40年以上の長きにわたり教育・研究活動を通じて多くの学生や大学院生を指導して頂きました。井上先生が研究室でご指導された卒業生は400名を超えます。特に、学科の公務員志望の学生への指導に尽力され、手厚い指導で学科の公務員合格者輩出に貢献されました。



卒業証書授与式の最後に挨拶する井上先生

本年4月より、森林植物・微生物学研究室に新たに助教として松倉君子先生が着任されました。松倉先生を加えて、本学科の女性教員は4名となりました。また、バイオマス資源化学研究室内の毛利嘉一先生が助教に昇格されました。

あすなる会ホームページ

あすなる会ホームページが下記のアドレスに開設されています。会長の挨拶、役員人事、会則、行事予定、近況の活動報告等の他、60周年記念行事として作成した「あすなる会60年のあゆみ」も掲載されています。
<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~asunaro/index.html>

学科の様子がわかる学科ホームページも、ぜひ併せてご覧ください。

<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~forestry/>
(園原 和夏)

桜水会

海洋生物資源科学科

連絡先：海洋環境学研究室

0466-84-3685 事務局長 廣海 十朗

E-mail: hiromijuro@nihon-u.ac.jp

2021年度桜水会総会・懇親会の開催中止

例年6月中旬に開催しておりました「桜水会総会」ならびに「懇親会」は、昨年度に引き続き中止となりました。また、桜水会総会を開催できなかったため、事業報告、決算報告、監査報告、ならびに次年度の事業計画案、予算案などは、来年度以降に審議する運びとなりました。

学科・準会員への支援

昨年度から続くコロナ禍への対応として、本年度前期の授業は、対面とオンデマンドのハイブリッド態勢で、4月21日から8月7日までの期間で開講することになりました。前期開講科目である「海洋生物資源科学概論」(1年次必修科目：対面授業)の中で、将来就いてみたい職業を見出すという職業研究の一環として、社会で活躍する本学科卒業生の体験談など講演していただきました。7月27日に土田新氏(53期：マルハニチロ株式会社)と山本朋之氏(55期：日本ベーリンガーインゲルハイム)、8月3日に佐藤友彦氏(65期：株式会社ファンケル)と伊藤陽人氏(52期：新潟県内水面試験場)の計4名の卒業生にお願いしました。また、「特別講義」(3年次選択科目：対面授業)では、本学科「海洋生物資源応用コース」(JABEE対応コース)の外部評価委員に委嘱されている方々から、長谷川勝治氏(20期：元焼津水産高校校長)、市橋 理氏(37期：アジア航測株式会社、技術士)、宮下一明氏(38期：株式会社東京久栄、技術士)、中瀬浩太氏(31期：五洋建設株式会社、技術士)および田角由香氏(日本ミクニヤ株式会社 技術士)の5名に、技術者教育の一環として講演していただきました。

このほか、1年次の学科オリエンテーションである地引網実習や必修科目である「海洋基礎実習Ⅰ」の実施に向けて熱中症対策などに関わる支援(本年度は下田臨海実験所が使用できないため、東京湾での帆船乗船実習や江ノ島での磯釣り・釣果物の観察などを実施予定)を、また1年次用の学科Tシャツの作製に加え、在学生の学会参加費等の補助や卒論コンペ(塚本賞)の支援、卒業生への記念品の贈呈等を実施する予定です。



地引網での集合写真

学科の近況

【新入生・在学生】

本年4月に143名(男子96名、女子47名)の新入生を迎え、現在586名(男子388名、女子198名)の学部生が在籍しています。また、4専攻に跨る大学院には、博士前期課程18名(男子12名、女子6名)、および博士後期課程5名(男子3名、女子2名)が在籍しています。

本年度の座学では、1年次、2年次生の必修科目を中心に対面授業を実施しています。コロナ感染予防に十分に配慮してのことです。2年次生の学生実験では前期4研究室分(化学、利用、計測、環境)は全て対面で実施しました。後期の4研究室分(生理、病理、生態、増殖)も対面で実施予定です。また、3年次生は5月初旬に研究室への配属が決まり、海洋生物資源科学演習Ⅰおよび実習Ⅰを対面で受講しています。さらに、4年次生の卒業研究活動や大学院生は例年通り研究室やフィールドでの研究活動を行えています。

学科のホームページでは本年度より中学生・高校生を対象に、SNSを通じた学科の研究活動・学生生活などの情

報発信を開始しました。InstagramとTwitterのQRコードを載せますので、フォロー等お願い致します。



Instagram
QRコード



twitterの
QRコード

【学科教職員の異動】

海洋生物資源科学科では、各研究室に2名以上の教員が所属する8研究室体制で研究・教育活動に取り組んでいます。それを支える学科事務室は、濱田奈々実習助手と宮治久美実習助手の2名体制となりました。また、4月に高井則之准教授が教授に、周防玲助手が助教に昇格されました。

桜水会事務局より

かねてより療養中だった橋ヶ迫賞桜水会会長(18期：昭和44年水産学科卒業)が令和3年6月2日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

桜水会会員の皆様の近況や同期会等の活動のご様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページ(HP)は、海洋生物資源科学科HP(http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kaiyo/wp/o-sui_description/)内に併設されております。同HP上で連絡先等の変更手続きができますのでご活用ください。桜水会は、昨年度末(2021年3月)に、会報の完全オンライン化に移行しました。皆様への連絡方法は、従来のハガキでの送付からメールの送付に移行しています。メールアドレスの登録・変更は、桜水会HPでお願い致します。

(福島 英登)

工学会

生物環境工学科

連絡先：生物生産システム工学研究室
0466-84-3691 梅田 大樹
E-mail：umeda.hiroki@nihon-u.ac.jp

会員の動向

正会員数は、令和2年度卒業生115名を加え、令和3年3月現在で7942名となりました。現役学生である準会員は、1年生135名(男114・女21)、2年生136名(男113・女23)、3年生123名(男105・女18)、4年生123名(男103・女20)で、合計517名(男435・女82)となっています。したがって、現役学生の男女比はおおよそ5:1となっています。



フレッシュマンセミナーの一コマ

学科の活動

生物環境工学科は毎年1年生を対象に、学科について学ぶことを目的としたフレッシュマンセミナーを開講しています。今年度はその一環として、学科に関わる農業施設の学外見学会を5月29日(土)に実施しました。新型コロナウイルス感染症対策として複数班に分かれての実施となりましたが、大学実験ほ場(今田水田)や境川遊水地、天王森泉館の建築構造について、教員がクイズを出題しながら見学しました。また、見学途中に「いきもの」の写真を撮ってもらい、フォトコンテストを開催しました。その際、学生の間から評価の高かった上位3名には、工学会の補助にて学科に関連する書籍を贈呈しました。

教員人事

4月1日付けで環境土木施設工学研究室の齊藤丈士先生が教授に昇任されました。また、生物生産システム工学研究室内の宮本眞吾先生が3月31日をもってご定年を迎えられ、4月1日付けで特任教授に就任されました。今後益々のご活躍を祈念いたします。併せて、同研究室の梅田が准教授に昇任しました。

本年度の研究室内の配置と所属教員(教授5名、准教授5名、専任講師3名、助手1名、特任教授4名、実習助手2名)は以下となります。

水資源環境工学研究室

(長坂貞郎教授、山崎高洋専任講師)

地域環境保全学研究室

(笹田勝寛准教授、對馬孝治准教授)

地球環境・資源リモートセンシング研究室

(串田圭司教授、宮坂加理助手)

動物生態環境学研究室

(三谷奈保専任講師)

建築・地域共生デザイン研究室

(栗原伸治教授、藤沢直樹専任講師、糸長浩司特任教授)

環境土木施設工学研究室

(齊藤丈士教授、川本治特任教授)

生物生産システム工学研究室

(川越義則准教授、梅田大樹准教授、宮本眞吾特任教授)

生物生産流通施設学研究室

(都甲洙教授、佐瀬勘紀特任教授)

バイオメカトロニクス研究室

(内ヶ崎万蔵准教授)

学科事務局

(中嶋綾香実習助手、池田真有花実習助手)



令和2年度学位記伝達式の一コマ



学科スポーツタオル

学科への支援

工学会では、準会員である現役学生に向けた支援を行っています。令和2年度の卒業生には卒業記念品(印鑑付きボールペン)の贈呈、及び卒業生表彰(工学会長賞)を行いました。工学会長賞は秋山葵さん、伊藤大輔さん、榎晴貴さん、坪田裕暉さん、外山樹理亜さんの5名となり、学位記授与式にて受賞者の公表が行われました。令和3年度の1年生には学外見学時にスポーツタオル・飲料を、専門科目のための参考書(農業農村工学必携)を、2年生には測量学実習に使用する実習服の一部費用と防護メガネを支援しました。3~4年生に対しては工学会HP上に就職支援ページを開設し、OBOGが在職する企業・団体を紹介し、学生の就職支援に一役買っています。

事務局より

郵送費の低減を図るために、会報はHP上での閲覧を可能とし、郵送を希望する方以外には発送しないことと致します。会員の皆様には下に示します工学会ホームページ等での情報発信に努めてまいります。

下記E-mailアドレスにメールいただければ、定期的な情報も配信いたしますので、ご活用いただけますようお願い申し上げます。

E-mail：info@bae-kougakukai.org

(工学会公式)

FAX：0466-84-3836(地域環境保全学研究室 笹田直通)



工学会ホームページ

<http://www.bae-kougakukai.org>

お問い合わせページ

<http://www.bae-kougakukai.org/inquiry2/postmail.html>

(梅田 大樹)

F T 会

食品生命学科

連絡先：食品資源利用学研究室
0466-84-3980 成澤 直規
E-mail：narisawa.naoki@nihon-u.ac.jp

F T会活動報告

【F T会理事会および総会の開催】

例年4月に本学湘南キャンパスにおいて開催されているF T会 理事会について、本年度は昨年度同様にコロナ感染症の影響によりメールによる議決となりました。これにより令和3年度事業計画案および会計収支予算等に関して承認されました。例年6月に開催される総会について本年度は中止されております。

【準会員（在学生）への活動】

F T会では準会員の活動援助として、卒業記念品の贈呈（卒業アルバム）を行いました。4年生の学業優秀者に贈られるF T会長賞には石毛康平さん、F T会事務局長賞には矢島里楓さんが選出されました。本年度の卒業式はコロナ感染症対策のため簡略化した形式で実施されております。全学生に対して資格試験受験料の補助も例年通り実施しました。例年1年次学生を対象に実施されるフレッシュマンセミナー、学部スポーツフェスタに対して補助を行っていましたが、本年度はコロナ禍によりいずれも開催が中止となっております。



F T会長賞を受賞した石毛康平さん
(右：F T会事務局長 陶 慧先生)

学科の近況

【在学生と卒業生】

令和2年度は138名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。令和3年度は新入生145名（男性70名・女性75名）を迎え、2年生143名（男性66名・女性77名）、3年生140名（男性65名・女性75名）、4年生138名（男性59名・女性79名）と合わせて566名が在籍しております（令和3年7月時点）。



新入生ガイダンスの様子
(令和3年4月9日実施)

【授業の状況】

本年度の講義の実施状況について、実験・実習についてはコロナ感染予防対策を徹底した上で対面で実施しております。座学講義については、オンデマンド、対面、および対面・オンデマンドのハイブリッド形式のいずれかで実施しております。4年生の卒論研究においては、各研究室でコロナ感染予防対策を実施したうえで研究活動を行っております。



学生実験の様子（食品生物化学・工学実験、3年生）

【学科人事】

令和3年3月末日をもって今井正直先生（食品生命工学研究室）と荻原博和先生（食品衛生学研究室）が定年退職され、同年4月より特任教授に着任されました。また、本年4

月より鈴木チセ先生が食品衛生学研究室の教授として着任されました。陶慧先生（食品生命工学研究室）が本年4月より准教授に昇格されました。

令和3年度 食品生命学科は以下の構成となっております。

○ 12号館5階

食品衛生学研究室
(鈴木チセ教授、河原井武人専任講師、京井大輔助教)

食品創成科学研究室
(阿部申准教授)

食品資源利用学研究室
(鳥居恭好准教授)

食品生命工学研究室
(陶慧准教授)

特任教授室
(今井正直特任教授、荻原博和特任教授、山形一雄特任教授)

学科事務室
(井上梢実習助手)

○ 12号館6階

食品資源利用学研究室
(竹永章生教授、成澤直規准教授、小林りか助教)

食品生命機能学研究室
(細野朗教授、津田真人専任講師)

食品栄養学研究室
(長田和実教授、大畑素子専任講師)

食品分析学研究室
(松藤寛教授、大槻崇専任講師)

事務局より

F T会のホームページ(<http://ftkai.net/>)では総会のご連絡など各種イベント情報を公開しています。また、F T会では同窓会・同期会の開催に際し、一部補助を行っております。ホームページからお問い合わせください。

(成澤 直規)

拓友会

国際地域開発学科

連絡先：熱帯資源作物研究室
0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸
E-mail: kurauchi.nobuyuki@nihon-u.ac.jp

令和3年度幹事会および総会の報告

令和3年6月1日～6月30日に、WEBによる令和3年度拓友会幹事会および総会が開催されました。第1号議案として、令和元年度活動報告ならびに決算報告、第2号議案として、令和2年度活動計画ならびに予算案が審議され、事務局提出案が承認されました。

活躍する卒業生

【聖火ランナーの大役果たす】

30年以上アフリカで稲作指導を続けてきたミスターネリカこと坪井達史(昭和50年卒)氏が地元の大分県杵築市で、令和3年4月23日に



坪井達史氏

聖火ランナーとして沿道を快走しました。坪井氏はこれまでの功績が評価され国際協力功労賞、食の新潟賞、日本熱帯農業学会磯賞など数多くの賞を授与されています。また、ニューズウィーク誌で世界で活躍する日本人100人の一人にも選出されています。

【夫婦で博士号取得】

菊池(旧姓武藤)千秋(平成13年卒)氏が2020年に県立広島大学大学院総合学術研究科から「ラオス北部イネ在来品種の遺伝的多様性に関する研究」で博士号を授与されました。菊池千秋氏は、本学科卒業後、静岡大学大学院、京都大学大学院を修了し総合地球環境学研究所を経て現在農業生物資源研究所ジーンバンクで研究を続けています。夫の菊池真司氏は本学科の同級生で、



菊池真司氏



菊池(旧姓武藤)千秋氏

現在千葉大学園芸学部の准教授に就いています。菊池夫妻のさらなる活躍を期待します。

【学会賞受賞】

石崎優美(令和元年卒)氏は令和2年11月7日に開催された日本熱帯農業学会講演会で「SSRマーカーを用いたエンサイ野生種と栽培種の遺伝的類縁関係の解析」で学生優秀発表賞を受賞しました。石崎優美氏は本学大学院生物資源科学研究科を令和3年3月に修了し、現在トキタ種苗で野菜の品種作出に励んでいます。



石崎優美氏

令和2年度拓友賞授与

令和2年度の拓友賞は、小泉泰仁さんが国際地域開発学科より推薦され、令和3年3月25日に実施された卒業証書伝達式の席上、表彰状ならびに副賞が授与されました。



倉内伸幸教授(左)・小泉泰仁さん(右)

卒業者の進路状況について

令和2年度卒業者の進路状況は、就職95名、進学7名、その他15名、就活中3名となり、就職希望者(120名)に対する就職率は96.9%となりました。

青年海外協力隊派遣状況

新型コロナウイルスが協力隊派遣国にも蔓延しているため、派遣中だった2名は一時帰国しています。また、今年度派遣予定だった1名は現在待機中で次年度派遣となる見込みです。

【一時帰国中】

令和元年卒 衛藤 阜(ウガンダ：稲作)

令和元年卒 中村 遼(ジャマイカ：野菜)

【派遣予定】

令和2年卒 辻 愛友(ウガンダ：稲作)

在校生の近況

令和3年7月現在、1年生144名(男子104名・女子40名)、

2年生134名(男子93名・女子41名)、3年生138名(男子98名・女子40名)、4年生135名(男子90名・女子45名)の合計551名(男子385名・女子166名)が在籍しています。

着任

小宮山博先生の後任として、国立研究開発法人国際農林水産業研究センターから飛田哲教授が着任されました。アフリカ、特にサヘル地帯の砂漠化防止や持続的農業のための地域資源管理に造詣が深く、学生指導に活躍が期待されます。また、実習助手として長澤真由美さんが着任されました。



飛田 哲 教授



長澤真由美 実習助手

本年度の研究室配置と所属教員

国際開発研究室 半澤和夫 特任教授
農業経済研究室 菊地 香 准教授
国際経済研究室 石田正美 教授
国際環境経済研究室 松本礼史 教授
国際経営・流通研究室 李 裕敬 専任講師
コミュニケーション・言語研究室 麻生久美子 専任講師
比較文化研究室 園江 満 専任講師
国際環境保全学研究室
ロイキンシュック 教授 佐々木綾子 助教
熱帯資源作物研究室 倉内伸幸 教授
加藤 太 准教授 佐々木大 助教
国際社会研究室 山下哲平 准教授
国際協力研究室 飛田 哲 教授
福田聖子 助教

学科事務室

野口麻美 実習助手

長澤真由美 実習助手

以上、17名(特任教授1名、教授5名、准教授3名、専任講師3名、助教3名、実習助手2名)で運営しております。

退職

小宮山博先生、堤美智先生、田近真有さんが退職されました。今後のご活躍をお祈り申し上げます。(山下 哲平)

応用生物科学科校友会

応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室

0466-84-3353 事務局長 明石 智義

E-mail: akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科の近況

応用生物科学科の在籍学生数は526名、学年別では1年生142名、2年生126名、3年生134名、4年生124名となっています。昨年度は121名の学生が卒業しました。このうち大学院進学者は18名で、それ以外の方々は社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

学生は、3年生になると研究室に所属しますが、平成28年度から就職活動に似た形式（教員と学生が面接をして、教員側が受け入れるか否かの判断をする）で配属先を決めることになりました。またこれまで各研究室の配属人数は、ほぼ均等でしたが、各研究室の教員数に偏りがあるため、教員の数に応じて定員を変更することになりました。教員1名の研究室の定員は8名、教員2名では定員17名、教員3名では定員26名となっています。7月の中旬より研究室配属のガイダンスが実施され、3回の配属決定会を経て、11月初旬に全員の配属が決定しました。現在の研究室の体制は以下の通りです。ホームページもあわせてご覧ください。

核酸・蛋白質科学研究室

（司馬肇教授、舩廣善和准教授、新井直人准教授）

生命工学研究室

（上田賢志教授、高野英晃准教授、西山辰也助教）

分子微生物学研究室

（岩淵範之准教授）

植物細胞学研究室

（内山寛教授、土屋徳司専任講師）

生体分子学研究室

（明石智義教授）

動物生体機構学研究室

（加野浩一郎教授、沖嘉尚助教）

細胞機能調節学研究室

（苫名充准教授）

分子免疫生物学研究室

（高橋恭子教授、中西祐輔専任講師）



オープンキャンパスの様子



特別講義の様子



新入生ガイダンス

学科への支援事業

これまで学科校友会では、準会員へ向けて新入生歓迎会、スポーツフェスタ、卒業記念品などの支援を行ってきました。しかし昨年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、イベントは軒並み中止になりました。

令和3年度も新入生歓迎会などは行いませんでしたが、7月には対面形式のオープンキャンパスが開催されました。感染防止対策をした上で、準会員の学生の皆様にもご協力頂きました。コロナ禍の影響の中、準会員の学生の皆様へどのような支援ができるのか、なかなか見通すことができません。事務局では今後検討し、適切な支援活動を行いたいと考えています。



学位授与・伝達式での学部長賞の授与

訃報

令和3年4月28日に佐藤嘉兵 名誉教授（動物細胞学研究室）がご逝去されました。先生には、学科が設立された昭和63年度に助教授として着任以来、長年にわたり教育・研究活動にご尽力されたことに感謝を申し上げますと共に、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

事務局より

また事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。また住所の変更、改姓、問い合わせ等ございましたらご一報下さいますようお願い致します。

（明石 智義）

くらしの生物学科校友会

くらしの生物学科

連絡先：くらしの園芸研究室
0466-84-3743 事務局長 新町 文絵
E-mail : shinmachi.fumie@nihon-u.ac.jp

くらしの生物学科の近況

くらしの生物学科 (BDL : Department of Bioscience in Daily Life) では、4月に安齋先生が特任教授になられ、炭山先生が専任講師に昇格されました。本年度は、

くらしの微生物

光澤 浩 教授 (学科主任)

相澤 朋子 専任講師

くらしのバイオ

炭山 大輔 専任講師

安齋 寛 特任教授

食と健康

山下 正道 准教授

近藤 春美 准教授

住まいと環境

小谷 幸司 教授

小島 仁志 助教

島田 正文 特任教授

動物のいるくらし

恒川 直樹 教授

金澤 朋子 助教

くらしの園芸

新町 文絵 教授

水野 真二 専任講師

渡邊 慶一 特任教授

学科事務室

高橋 唯 実習助手

の15名で運営しています。

なお本年7月1日現在で4年生77名、3年生81名、2年生80名、1年生81名の計319名の準会員が在籍しています。

くらしの生物学科は1学年の定員が80名と少人数であることを活かし、フィールドワークや学生による発表の機会が多いカリキュラムを組み、学生の自主性や社会性、コミュニケーション能力などを育み、広くかつ深い知識を身につけた「スペシャルなゼネラリスト」育成を目指します。

令和2年度の3年次の必修科目「ボ

ランティア活動」は新型コロナウイルス感染症の影響により一部の実習先で活動が出来ず、活動先の異動などがありましたが無事に終了し、成果発表会はオンデマンドで開催されました。

また2月中旬には第3回の学科卒業研究発表会がオンデマンド形式で開催されました。4年生だけでなく、研究室に所属している3年生および希望する1、2年生も参加し、研究発表の質問も23件寄せられました。

3月25日には3期生78名が卒業し、新たに校友となりました。卒業後の進路は、61名が就職、このうち3名が公務員となり、本学および他大学の大学院への進学は3名となっています。

卒業式は今年もコロナ禍の影響で、全員マスク着用で学科別の実施となりました。始めに、学部長賞を受賞した韓 笑さんに学科主任の光澤先生から賞状及び記念品が授与され(写真1)、その後、一人一人に学位記が渡されました。感染拡大防止のため、卒業生は終了後すぐに帰宅するよう求められましたが、マナー良く守ってくれました。



韓さんへの学部長賞の賞状授与(写真1)

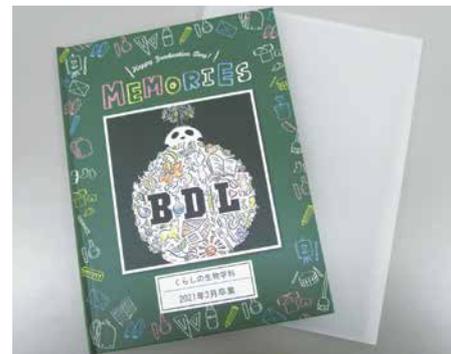
令和2度は対面授業ができず、ほとんどがオンデマンド授業でしたが、令和3年度は一部でオンデマンド授業を併用しながらも、くらしの生物学科はほとんどの科目が対面式授業となっています。

くらしの生物学科 校友会の活動報告

令和2年度の校友会総会は、コロナ禍のため総会資料を郵送し、書面開催としました。議決はWeb回答で行い、会長、副会長、事務局長は再任し、監事は恒川先生と小谷先生に、また1期生、2期生から新たに12名の理事が選出されました。令和3年度の総会に

ついてはオンラインでの開催を検討中です。

令和2年度卒業生への校友会からの卒業記念品として、オンライン受付のフォトアルバム作成サービスを活用してA4サイズ16ページの卒業アルバムを作成し(写真2)、卒業生全員に贈呈、学科に1冊を寄贈しました。



卒業記念品の卒業アルバム(写真2)

また新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和3年度もスポーツフェスタが中止となりましたが、昨年同様にフレッシュマンセミナーのグループワークで学科の「いいね!」を盛り込んだロゴをデザインし、学科Tシャツの活用方法を考えましたので、校友会の準会員支援として、これまで通りTシャツを購入して配布することとしました。発表会(写真3)と投票を通じてデザインも決まり、夏休み明けにはTシャツを1年生に配布する予定です。



Tシャツデザインの発表会の様子(写真3)

くらしの生物学科校友会事務局より

くらしの生物学科は、現在ホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kurashi/index.html>) および Facebook やインスタグラムなどで情報を発信しています。御連絡は事務局長までお願い致します。

(山下 正道)

支部だより

令和2年度宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘3-30-14
 支部長 鎌田 雅敬 事務局長 早坂 睦雄
 TEL.022-378-6592 FAX.022-378-6592
 携帯電話：080-5579-5456
 E-mail：mutsuo-hayasaka.1506@jcom.zaq.ne.jp

本会はR3年度で18周年を迎えました。
■R2年度の全ての行事はコロナ禍で中止になり、総会も繰り越しました。
 R3年度も終息には程遠い状況にあり、引き続き総会及び夏までの行事を中止することに致しました。

- R3年秋以降終息後の事業計画
- ・R3.10.31. 全日本大学女子杜の都 駅伝応援。
- ・R3.12. 総会役員会忘年会。
- ・R4.1. 校友会支部新年名刺交換会出席。

■ローカルトピックス



おかえりモネ

7/13.NHK 朝ドラの「おかえりモネ」でモネが初めて就職した「米麻(よねま)町森林組合」の撮影施設は、登米(とめ)市の長沼湖畔長沼フートピア公園内にあります。営業の途中で見かけました。



八村塁横断幕

7/17. 東京オリンピック開会式で日本選手団の旗手を祝うバスケットボール「八村塁」の横断幕が母校仙台市内の仙台大学付属明成高校で掲げられ、自宅周辺の散歩の途中で見かけました。



ブルーインパルス

8/3. 東京パラリンピック開会式に東京の空を再び飛行する「ブルーインパルス」が、東松島市の野蒜(のびる)海岸の夏空で訓練していました。営業の帰路で見かけました。

- 会員の状況 (R2年現在 37名)
- ※卒業生・富嶽会 2名・紫友会 1名
- ・角笛会 2名・満喜葉会 5名・いもずる会 5名・あすなる会 4名・桜水会 4名・工学会 6名・FT会 4名・拓友会 3名・湘南校友会 1名・賛助会員：提携校東北高等学校

(文責者 早坂睦雄)

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘 4-55
 日本大学山形高等学校 小嶋 佑治
 TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
 E-mail：kozima.yuji@nihon-u.ac.jp

■生命農学科 (農学科)

昭和 48 年卒 竹田 喜博

現在、山形県長井市でぶどうの苗木を生産しております。(芦沢農園)

卒業して一年間は地元の役所に勤めておりましたが、縁がありましてぶどう苗木を作る農家に養子に入り苗木を生産して47年になります。現在、家業は息子が継いでおり、自分は後進の指導、家業の手伝いと忙しい日々を過ごしております。ぶどう苗木について、苗木は全て台木(フィロキセラの抵抗性)に接木をしております、接木は1本、1本、手作業(一日800本)でしていましたが現在ではドイツ製オメガ式接木機械(一日2000本)を使用しており、手を切ったりするケガもなく安全に作業する事が出来ます。品種についてデラウェア、ネオマスカットを作っております、今はそれにシャインマス



カット、ゴルビー、ピオーネとさらに美味しい生食用品種も苗木を作っております。現在日本ワインの醸造が全国各地で推し進められ美味しい日本ワインが出来るようになりました、日本でも欧州系のワイン専用品種のぶどうが栽培されるに従いワイン専用品種の苗木の需要が高まり、生食用ぶどう苗木と並行して生産しております。会員の皆様でぶどう栽培、ワイン事業に関心のお持ちの方がいましたらご一報を下さい。

■生命化学科 (農芸化学科)

昭和 57 年卒 瀬野 太

還暦を過ぎ、青果物商として果樹農家と接し、数年前から2.5haの果樹(サクランボ・桃・ラフランス・リンゴ)を栽培し農家の仕事を楽しんでいる。

私が、青果物商に携わったばかりの時は、加工用桃の栽培が多く、満開時期には桃の花がピンクの絨毯のように展開していた。今も色々な花が壮大な景色で心を癒してくれる。

農業は楽しい。基本作業は剪定・防除・除草・収穫、これに尽きる。その他摘果や摘葉と販売形態に合わせて作業をするが、収穫の喜びを想像しての作業である。今年のように天災に遭う場合もあるが、農家の老人たちは、「百姓の来年」と言う、過ぎたことを後悔しても仕方がないという考えだ。収入は少ないが残った果実の生育を見守ることも夢がある。

近年、農家は生産者でなく販売業者になってしまった、商品の高付加価値のため化粧技術に時間が費やされ家族経営では生産収量を少なくしなければならず、遊休農地が増えているのである。農業の未来を憂いながら、私は農業を楽しんでいる。



桃の花

サクランボ

ラフランス摘果

神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部 食品生命学科
食品資源利用学研究室 事務局長 鳥居 恭好
E-mail: tori.yasuyoshi@nihon-u.ac.jp

令和3年8月、新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言が再発出されている8日に「2020年東京オリンピック」が閉幕した。コロナ禍で社会情勢が目まぐるしく変化中、当支部の近況を報告する。

学部校友会会報第73号で報告したように、学部農場の施設の老朽化に伴う大改装プランにより、本支部ビニールハウスと関連施設が撤去されることとなった。これに伴い、新ビニールハウスが旧農場本館裏に設置された。また農場本館内に神奈川県支部執務室が置かれ運用が始まった。ビニールハウスの移転作業は、会員の苦勞により進んでいる。

畑作業は、月曜と土曜の週2回、通称17・18号地で実施されている。今年は天候不順が続いている。17号地は、耕起と播種のタイミングが多少ずれたが、カボチャ、オクラ、インゲンマメ、トウモロコシ、ナス、ミニトマト、キュウリ、ピーマン、サトイモ、ヤマノイモ、ニンジン、モロヘイヤ、ホウレンソウ、シュンギク、チンゲンサイなど多品種少量生産をしている。今年は、水やりに手間取り、うどん粉病が発生したが消毒作業ができなかった。また18号地では雑草の処理が後手に回り、播種のタイミングが遅れた。本地には給水設備がないために、水の依存度の少ない落花生、サツマイモ、枝豆等を植えている。また秋口に、昨年同様ソバを植える段取りもしている。

昨年秋に脱穀したソバを今年も海老名の「佐藤精米所」で製粉処理を

してもらった。ソバ打ちが趣味の会員による手打ちソバは、会員はもとより、関係者や協力者へもお福分けされ、ざるそばやニンソバなどで賞味されている。

神奈川県支部の活動は、地元の協力のもと実施されている。植え付け野菜類の種子は、藤沢市白旗の「種藤商店」(店主親子は当学部卒業生)から購入し、栽培に関する適切なアドバイスを受けている。また17号地の1トン水タンクへの給水は「佐々木グリーン」(副支部長)の好意によるものである。そして農産物生産の技術指導の鈴木明夫先生は、米寿とは思えぬ若さで、農業への強い情熱をもち作物づくりの細かい指導をされている。

(支部長 稗貫 峻)



17号地の農作業風景



18号地への耕運機の搬送



嬉しい収穫作業



ビニールハウス横で参加者集合

日本大学生物資源科学部校友会 役員名簿

(令和3年11月15日現在)(敬称略)

役職	氏名	所属分会	学科名
会長	鳥海 弘	角笛会	獣医学科
副会長	長島 武志	富嶽会	生命農学科
〃	高橋 善人	紫友会	生命化学科
〃	小杉 幸彦	満喜葉会	動物資源科学科
〃	横川 屹	いもづる会	食品ビジネス学科
幹事長	阿部 和時	あすなる会	森林資源科学科
幹事	佐々木 透	富嶽会	生命農学科
〃	磯部 勝孝	〃	〃
〃	藤岡 智子	紫友会	生命化学科
〃	荻原 淳	〃	〃
〃	井上 亮一	角笛会	獣医学科
〃	渋谷 久	〃	〃
〃	山本 捷	満喜葉会	動物資源科学科
〃	園田 豊	〃	〃
〃	藤井 正気	いもづる会	食品ビジネス学科
〃	高橋 巖	〃	〃
〃	東郷 聖史	あすなる会	森林資源科学科
〃	渡辺 隆之	〃	〃
〃	宮野 則彦	〃	〃
〃	黒澤 慶司	桜水会	海洋生物資源科学科
〃	田中 英臣	〃	〃
〃	今川 荘浩	〃	〃
〃	酒川 和男	工学会	生物環境工学科
〃	工藤 謙一	〃	〃
〃	笹田 勝寛	〃	〃
〃	関村 具由	F T 会	食品生命学科
〃	廣川 隆一	〃	〃
〃	陶 慧	〃	〃
〃	北原 幸典	拓友会	国際地域開発学科
〃	山下 哲平	〃	〃
〃	倉内 伸幸	〃	〃
〃	近藤 明宏	応用生物科学科校友会	応用生物科学科
〃	土屋 徳司	〃	〃
〃	明石 智義	〃	〃
〃	安齋 寛	くらしの生物学科校友会	くらしの生物学科
〃	光澤 浩	〃	〃
〃	新町 文絵	〃	〃
監査役	長谷川 功	紫友会	生命化学科
〃	野村 和成	富嶽会	生命農学科
〃	立石 亮	〃	〃

会報編集委員名簿

(令和3年4月1日現在)(敬称略)

氏名	所属分会
宍戸理恵子	富嶽会
荻原 淳	紫友会
大野真美子	角笛会
山室 裕	満喜葉会
佐藤 奨平	いもづる会
園原 和夏	あすなる会
福島 英登	桜水会
梅田 大樹	工学会
成澤 直規	F T 会
山下 哲平	拓友会
明石 智義	応用生物科学科校友会
山下 正道	くらしの生物学科校友会

校友会からのお知らせ

1 卒業生の動向について

平成23年度から10ヶ年の卒業生数及び延べ卒業生数は次表のとおりです。

(単位：人)

区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
卒業生数	1,981	1,865	1,984	1,824	1,848	1,675	1,704	1,799	1,670	1,566
内 訳	学部生	1,703	1,603	1,699	1,600	1,601	1,603	1,614	1,581	1,480
	短大生	157	150	153	144	149	—	—	—	—
	大学院生	121	112	132	80	98	72	90	84	86
延べ卒業生数	89,425	91,290	93,274	95,098	96,946	98,621	100,325	102,124	103,794	105,360

(説明) 短期大学部は平成27年度をもって廃止されました。

2 令和3年度の藤桜祭の開催について

令和3年度の藤桜祭は、10月23日(土)及び24日(日)の両日学内で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年度に引き続き中止となりました。

3 ホームカミングデーの開催について

校友各位に旧交を暖めていただく場として、第1回ホームカミングデーを藤桜祭の開催初日(10月23日)に開催すべく準備しておりましたが、藤桜祭の開催が中止となりましたのでホームカミングデーの開催も中止となりました。

4 令和4年度の通常総会及び懇親会の開催について

(1) 通常総会

ア 日 時：令和4年7月9日(土) 午後2時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 NUホールA

(2) 懇親会

ア 日 時：同日 午後4時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 食堂棟3階

なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承ください。

◎ お問い合わせ等について

生物資源科学部には会員各位が卒業されました各学科毎に校友会があります。

本会報は、各学科校友会の会報編集委員及び都道府県支部の会報執筆担当者の方々のご協力を得て学部校友会の広報委員会が作成しております。

したがって、掲載記事の内容に関するお問い合わせ、住所変更の届け出、あるいは今後の会報発送不要等のご連絡は、直接各学科校友会、若しくは都道府県支部の記事掲載ページに記載してあります連絡先までお願いします。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL:0466-84-3799 FAX:0466-84-3531 E-mail:brs.koyukai@nihon-u.ac.jp

印刷所：(株)デイ・エム・ピー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町561 TEL：03-5292-6800(代) FAX：03-5292-6871